

株式会社播水

2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年 6月～2024年 5月)



®環境省

エコアクション21
認証番号0012944

発行日： 2024年08月03日

改定日： 2024年08月03日

I. 環境経営方針

株式会社播水

環境経営方針

当社は、土木工事、給排水衛生設備工事各事業分野において、地球環境の保全のために、環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境経営システムの継続的改善を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します（電力、ガソリン、軽油）。
4. 廃棄物の削減を推進します。
5. 建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
6. 水道水使用量の削減を推進します。
7. 化学物質の適正管理を推進します。
8. グリーン購入を推進します（再生資源の利用）。
9. 環境に配慮した施工を推進します。
10. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2018年06月01日

改定日：2019年10月21日

代表取締役社長 澤田 雅一

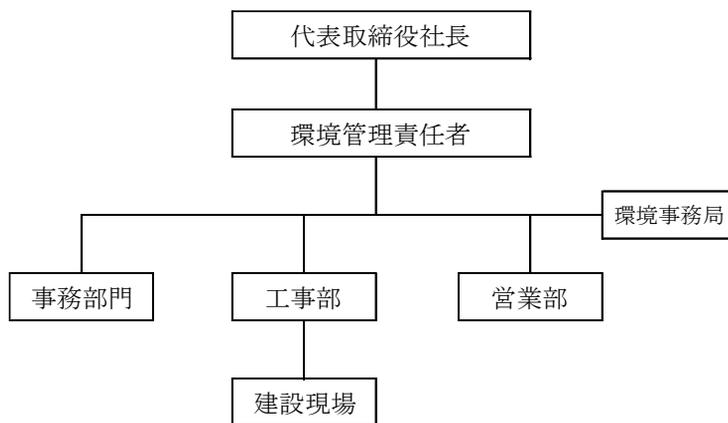
II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社播水
代表取締役社長 澤田 雅一
- (2) 所在地
本 社 〒670-0952 兵庫県姫路市南条2丁目50番地
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
責任者 工事部部长 新屋 和夫 TEL:079-284-2827
担当者 営業部 山本 和肖 FAX:079-284-2824
E-Mail : yamamoto@bansui-s.com
- (4) 事業内容
土木工事業、給排水衛生設備工事業
建設業の種類：土木工事業、管工事業
許可番号：兵庫県知事（特-2）第456698号、許可の有効期間：令和2年8月28日～令和7年8月27日
- (5) 事業の規模
設 立 昭和46（1971）年4月29日
資本金 20百万円
工事完成高 370百万円（2023年度）
従業員数 11名
延べ床面積 251㎡
- (6) 事業年度 6月～翌年5月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名： 株式会社播水
対象事業所： 本社
対象外： なし
活動： 土木工事業、給排水衛生設備工事業

IV. 環境経営システム組織及び役割・責任・権限



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局 部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の運用管理 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正・予防処置の実施
工事責任者 （工事代理人）	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場における環境経営システムの実施 工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 建設現場の環境経営計画の実施及び達成状況の報告 緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 建設現場での問題点の発見、是正・予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

V. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度 基準年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	51,897	53,706	53,931
電力使用量	kWh	10,207	10,110	10,261
ガソリン使用量	L	14,059	13,553	13,546
軽油使用量	L	6,201	7,369	7,444
LPG使用量	kg	12	12	12
廃棄物排出量	t	86.5	86.1	86.1
一般廃棄物	t	1.5	1.1	1.1
産業廃棄物	t	85.0	85	85
水道水使用量	m ³	78	78	76

VI. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

項目		年度	2020年度 基準年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂		51,897	51,378	50,859	50,340	49,821
	対基準			△1%	△2%	△3%	△4%
電力使用量削減	kWh		10,207	10,105	10,003	9,901	9,799
	kg-CO ₂ 対基準		3,246	3,213	3,181	3,148	3,116
ガソリン 使用量削減	L		14,059	13,918	13,778	13,637	13,497
	kg-CO ₂ 対基準		32,617	32,291	31,965	31,638	31,312
軽油 使用量削減	L		6,201	6,139	6,077	6,015	5,953
	kg-CO ₂ 対基準		15,999	15,839	15,679	15,519	15,359
II. 廃棄物排出量							
一般廃棄物 削減	kg 対基準		1,596	1,580	1,564	1,548	1,532
産業廃棄物 適正管理	—		適正管理	適正管理 ※工事内容により量が変わるため適正管理とする			
建設リサイクル率 の向上	% 対基準		80.6	81.4	82.2	83.0	83.8
III. 水使用量 削減	m ³		78.0	77.2	76.4	75.7	74.9
	対基準			△1%	△2%	△3%	△4%
IV. 化学物質 適正管理			適正管理	適正管理 ※排水接着剤等を使用。削減出来ないため適正管理とする			
V. グリーン購入 (再生資源の利用)			262	再生資源の積極使用			
VI. 環境に配慮した 施工の推進			実績不明	実態調査	環境配慮施工の推進		

注1) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、関西電力(株) 2020年度実績値の調整後係数 0.318kg-CO₂/kWh を使用。

注2) LPG使用量は、微量のため目標に設定しない。

注3) 基準年度における建設リサイクル率=再資源化量96t/建設廃棄物総量119t

(2) 2023年度の実績

項目	年度	2023年度における実績				
		2020年度	2023年度 (2023年6月～2024年5月)			
		基準値	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	51,897	50,340	53,931	93.34%	×
			△3%	96%		
電力使用量削減	kWh	10,207	9,901	10,261	96%	×
	kg-CO ₂ 対基準	3,246	3,148	3,263		
			△3%	99%		
ガソリン 使用量削減	L	14,059	13,637	13,546	101%	○
	kg-CO ₂ 対基準	32,617	31,638	31,427		
			△3%	104%		
軽油 使用量削減	L	6,201	6,015	7,444	81%	×
	kg-CO ₂ 対基準	15,999	15,519	19,206		
			△3%	83.3%		
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg 対基準	1,596	1,548	1,118	138%	○
			△3%	142.8%		
産業廃棄物 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	100%	○
建設リサイクル率 の向上	% 対基準	80.6	83.0	82.1	99%	○
			+3%	102%		
III. 水使用量 削減						
削減	m ³ 対基準	78.0	75.7	76.0	100%	△
			△3%	102.6%		
IV. 化学物質 適正管理						
適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	100%	○
V. グリーン購入 (再生資源の利用)						
対基準	t	262	積極使用	271	100%	○
VI. 環境に配慮した 施工の推進						
対基準	—	実績不明	実態調査	環境配慮 215件	—	○

注1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100%

注2) 評価欄 ○：達成（100%以上）、△：やや未達成（100%未満～96%）、×：未達成（96%未満）

注3) 2023年度における建設リサイクル率＝再資源化量69.8t／建設廃棄物総量85t

注4) 当社における環境に配慮した施工とは、工事現場の3S、工期の厳守、エコ建材の積極使用、騒音対策の徹底、円滑な交通の確保、道路汚れの防止、エコドライブの励行など。

Ⅶ. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減 (目標未達成)		
(下記の通り)		(下記の通り)
電力使用量の削減 (目標未達成)		
・空調温度の適正化 (冷房28℃暖房20℃)	△	一部でクールビズも導入した。もっと多くの工夫を採り入れ、次回に向け対策を考える。
・サーキュレーターを設置	◎	頻繁に使用する部屋に設置できた。
・不要照明の消灯	○	階段での消し忘れなど、不要照明の消灯を徹底する。
・設備の空運転禁止	○	昼休みなど長時間不使用時には対応できたが、今後は、もっとこまめに入・切の操作をする。
ガソリン使用量の削減 (目標達成)		
・アイドリングストップ	◎	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・急加速・急停車の防止	◎	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。
・効率的な移動	○	もっと無駄を省く計画性が必要と思われる。 次年度も、左記取組を継続する。
軽油使用量の削減 (目標未達成)		
・重機の空ふかしの禁止	○	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・アイドリングストップ	○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。
・空気圧、オイル等の点検	○	しっかりと点検出来ている 次年度も、左記取組を継続する。
一般廃棄物の削減 (目標達成)		
・実態調査	○	概ね出来た。
・分別の徹底	○	上記と同じ 今後も正確な排出量を把握しながら、削減に努める。
産業廃棄物の適正管理 (目標達成：適正管理)		
・実態調査	○	正確な排出量を把握する工夫をする。
・素材ボックスの設置	○	分別ができ、状態が把握できるようになった。
・保管場所の掲示板を設置	○	設置済みである。 今後も実態調査を継続しながら、削減に努める。
建設リサイクル率の向上 (目標達成)		
・分別によるリサイクル推進	◎	目標達成。今後も分別を押し進めていきたい
・仮設資材の再利用の推進	○	やれることは出来ている。 次年度も、左記取組を継続する。
水使用量の削減 (目標やや未達成)		
・節水の周知徹底	○	節水の呼びかけにより徹底をはかる。
・節水シールの貼付とポスター掲示	○	簡単なポスター等を掲示した結果、意識が向上した。
・清掃時・手洗い時の節水	○	より多くの工夫ができるようにする。 次年度も、左記取組を継続する。
化学物質の適正管理 (目標達成：適正管理)		
・化学物質の成分や過去の使用量 実績など調査し、目標を定める	○	在庫を出来るだけ置かないように指示する。 次年度も、左記取組を継続する。
グリーン購入の推進 (再生資源の利用) (目標達成：積極使用)		
・再生砕石の使用促進	○	全現場にて実施。指導する。 次年度も、左記取組を継続する。
環境に配慮した施工の推進 (目標達成：環境配慮施工の実施)		
・工事分野別の技術・ノウハウ の収集	○	各種工事分野の環境配慮工法について調査を実施。 引き続き継続する。
・環境配慮施工の推進	○	可能な限り環境に配慮した施工を実施した。 次年度も、左記取組を継続する。

VIII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
自動車NOx・PM法	規制対象車両の登録禁止 規制対象車両の指定地域通行禁止	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	消火設備・火災警報設備の点検整備	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、いずれも遵守されていることを確認しました。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。

IX. 代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は、良い地球環境や自然環境を次世代に残すための取り組みの大切さを社員全員が認識し、エコアクション21に取り組んで来ました。一般社員の意識の高さは顕著であるといえます。

節電、節水、エコドライブなどの省エネについては、目標値が高くなり達成に向けて一層努力をして行く必要があります。また、3Rなどの無駄をなくす取り組みは、社内活動として定着して来ており、今後は更なる啓発活動を行い、全社員への徹底を図って行く必要があります。

全体的には、非常に厳しい経済状況の中、投資をなるべく抑えて、目標を設定して実行し、目標を達成して来たことは、非常に評価出来ると考えます。

1. 環境経営方針については、特に変更の必要はなく今後も継続します。
2. 環境経営目標についても変更はありません。今年度の数値目標を達成できるように日々の行動を心掛けます。
3. 環境経営計画については、今年度計画を新たに策定し新しい目標に向かって進むこととなります。削減目標の達成が毎年厳しくなってくる中、新たな施策を常に考え更新していきます。
4. 実施体制については、特に変更の必要はなく今後も継続します。

2024年 8月 3日
代表取締役社長 澤田 雅一